

東奥日報

2019年(令和元年)6月8日(土曜日) (17)

講義や実験 向学心高く

七戸高校生 航空科学館で学習

三 沢

七戸高校自然科学系列の3年生37人が5日、三沢市の県立三沢航空科学館でフ



ピンセットを使い、海洋生物を分類する生徒たち

ールドワークに臨んだ。大学の模擬授業の体験や同科学館インストラクターによる実験・演習など五つのプログラムを通じ、科学へ

の関心を深めた。

大学模擬授業では、八戸工業大学生命環境科学科の田中義幸教授が「海洋生物からのメッセージ」と題し、大学と同じく約90分間にわたり講義。「生物と周辺環境を一緒に記録しておくことが役立つ」と語った。

生徒は和歌山、鹿児島、愛媛の3県の沖合で捕獲されたカタクチイワシの稚魚とその他の生物や、六ヶ所村沖のイカナゴの稚魚などを分類。生物の多様性に理解を深めた。寺澤さゆりさん(17)は「新鮮で楽しく、分かりやすい内容でした」と振り返った。

また、銅製のメダルに亜鉛めっきを施して銀色に変色させた後、バーナーで加熱して金色の真ちゅうに変化させる実験や、ミス・ビードル号について学ぶ授業も行われた。田浦祐成さん(17)は「大学の授業は難しいのでは」と身構えていたが、これまでとは別の観点から物事が見えるように感じ、面白かった」と話した。

(岡田圭逸)